

<p>2. 事業の概要と成果</p>	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p><u>上位目標</u>：</p> <p>本事業は、ゴクウェ・ノース地区のより多くの住民が安全な水及び衛生環境で生活できるようになることを目的とする。</p> <p><u>達成された事柄</u>：</p> <p>本事業は、3つの小学校における貯水タンク計5基の設置、5つの小・中学校における手洗い場計25基の設置、また小・中学校及びコミュニティにおいて衛生知識を深く定着させるための衛生教育既修者コースを実施した。これらの活動を通し、対象地域全体の水・衛生環境の改善に貢献することができた。</p> <p>その一例として、ニューメイン小学校では、2014年3月から2015年5月にかけて、生徒数が328人から377人へと約50人も増加した。学校教師及びコミュニティの聞き取り調査からその要因の一つとして、当校の教育及び水・衛生環境の改善が挙げられた。第1期（2013年～2014年）に2校舎が建設され、今期（2014年～2015年）にはその校舎にて30,000ℓの貯水タンク及び5基の手洗い場が設置され、生徒はより衛生的な環境のもとで学び、また雨季の間、手洗いや飲み水用に貯水タンクから安全な水を使用し、下痢や感染症などにかかることを恐れずに安心して学校生活を送れるようになったとのことであった。安全な水・衛生環境にあるニューメイン小学校の生徒数が増えたことは、安全な水・衛生環境のもとで暮らす子どもの数も増えたことも意味するため、望ましい結果であった。</p> <p>また、2つの中学校にて計4校舎を建設し、第3期で行なう貯水タンク設置のための環境整備を行なった（第3期では貯水タンクを設置することによって、これらの中学校の水・衛生環境がさらに改善されると見込んでいる）。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p><b>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</b></p> <p><b>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</b></p> <p>次期事業で行なう貯水タンク設置の環境整備のため、2つの中学校（ガンガンガ中学校、チオザ中学校）で各校2つの校舎建設を行ない、1校舎あたり計30台のベンチ型学習机（3人掛け用）を設置した。また、3つの小学校に計5基の貯水タンク（30,000ℓ）を設置した。その内訳は、ガンガンガ小学校：2基、ネバナ小学校：2基、ニューメイン小学校：1基である。</p> <p>*なお、当初ネバナ小学校：2基、ガンガンガ小学校：1基、ニューメイン小学校：2基としていたが、ネバナ小学校：2基、ガンガンガ小学校：2基、ニューメイン小学校：1基に変更した（2014年5月9日付で変更報告書を提出）</p> <p><b>(イ) 衛生環境の改善</b></p> <p><b>B. 学校における手洗い場の設置 25基（5校に各5基設置）</b></p>

	<p>5つの小・中学校（グラ小学校、ネバナ小学校、マブウエマテマ小学校、ニューマイン小学校、チオザ中学校）に Tip-Tap と呼ばれるモデルの手洗い場をそれぞれ5基ずつ設置した。</p> <p>* 当初予定していた手洗い場のモデルから Tip-Tap に変更し、設置数を各校1基から5基へ変更した（2014年8月21日付で変更報告書を提出）。</p> <p>* 当初、対象校の一つをガンガンガ中学校としていたが、マブウエマテマ小学校に変更した（2015年2月19日付で変更報告書を提出）。</p> <p><b>C. 既修者コース（参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コース）の実施</b></p> <p>第2期に行なった「既修者コース」研修の参加者が、8つの小学校／中学校と8区、9区、33区及び34区のコミュニティにて、それぞれ担当するヘルス・クラブの活動を継続し、2015年6～7月に活動を終えた。ヘルス・クラブの参加者の終了式を2015年10月～11月にかけて行なった。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><b>ア) 安全な水へのアクセスの向上</b></p> <p><b>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</b></p> <p><u>見込まれた裨益者数</u>： 1) 校舎建設：計4校舎：約265人（計2中学校） 2) 貯水タンク：計5基：約1,205人（計3小学校）</p> <p><u>達成された裨益者数</u>： 1) 校舎建設：計4校舎建設：370人（計2中学校） 2) 貯水タンクの設置：計5基設置：1,346人（計3小学校）</p> <p><u>内訳</u>： 1) 校舎建設：212人（2校舎・ガンガンガ小学校）、158人（2校舎・チオザ中学校） 2) 貯水タンクの設置：460人（2基・ネバナ小学校）、509人（2基・ガンガンガ小学校）、377人（1基・ニューマイン小学校）</p> <p>(指標)：雨季にすべての生徒及び教員が安全な水を利用できる。 (成果)：雨季の期間、3つの小学校（ネバナ小学校、ガンガンガ小学校、ニューマイン小学校）において、すべての生徒及び教員に飲料用及び手洗い用に必要な量となる安全な水を供給できた。</p> <p><b>(イ) 衛生環境の改善</b></p> <p><b>B. 手洗い場の設置</b></p> <p><u>見込まれた裨益者数</u>： 約1,600人（計5小・中学校） <u>達成された裨益者数</u>： 1,666人（計5小・中学校） <u>内訳</u>： 352人（グラ小学校）、460人（ネバナ小学校）319人（マブウエマテマ小学校）、377人（ニューマ</p>

イン小学校)、158人(チオザ中学校)

(指標): 排泄後など生徒及び教員の80%以上が手洗いを行なう。

(成果): ほぼ100%の割合で、生徒及び教員が手洗い場を使って、手洗いを実践している。

### C.既修者コースの実施

見込まれた裨益者数: 4,137人(直接裨益者数: 232人、  
間接裨益者数: 3,905人)

達成された裨益者数: 2,592人(239人(直接裨益者数)、  
2,353人(間接裨益者数))

※間接裨益者が見込みより減った要因として、昨年よりUNICEFによってゴクウェ・ノース地区全体で“Rural WASH Program”(水・衛生事業)が始まり、似たような衛生教育を実施しているからと考えられる。

内訳:

1.直接裨益者: 67人(8区)、57人(9区)、54人(33区)55人(34区)、6人(グラ小学校、ネバナ小学校、ガンガンガ中学校、ムティモリ小学校、チオザ小学校、チオザ中学校関係者)

2.間接裨益者: 50人(チオザ小学校)、56人(チオザ中学校)、40人(ガンガンガ小学校)、36人(ガンガンガ中学校)、80人(ネバナ小学校)、30人(ムティモリ小学校)、36人(ニューマイン小学校)、60人(グラ小学校)、470人(8区)、544人(9区)、768人(33区)、183人(34区)

(指標1) 参加したトレーナーが理解度を測るテストで70%以上正答する。

(成果1) テストを受けたトレーナー235人のうち209人が70%以上正答した。

(指標2) トレーナーから訓練を受けたものが理解度を測るテストで70%以上正答する。

(成果2) 296人がテストを受け、130人が70%以上正答した。

なお、既修者コースの実施は第3期の6月まで実施するため、70%に満たなかった者を中心にフォローアップを継続していく。

<p>(4) 持続発展性</p>	<p><b>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</b></p> <p><b>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</b></p> <p><b>1) 校舎建設</b></p> <p>校舎建設終了後、学校運営を担う各学校の School Development Committee (SDC) (学校開発委員会) のメンバー (校長、教頭、主任教諭及び生徒の保護者) に対して、ゴクウェ・ノース地区の Rural District Council (RDC) (ゴクウェ・ノース地区行政) の Department of Public Works (土木課) の職員を講師として、校舎の維持・管理研修を行なった。この研修を通して、SDCs のメンバーは、校舎の維持・管理方法を学んだ。また、ゴクウェ・ノース地区の RDC と各 SDCs の関係が構築され、SDCs のみでは対応が難しい事柄に関しては、SDGs と RDC が連携してあたっていく。</p> <p><b>2) 貯水タンクの設置</b></p> <p>貯水タンクを設置し終えた後、各学校の SDC に対して、貯水タンクの技術者 (貯水タンクの設置にあたり、建設作業員を訓練した技術者) を講師として、貯水タンクの維持・管理研修を行なった。この研修を通して、SDCs のメンバーは、貯水タンクの維持・管理方法を学んだ。また、必要な時に SDCs が技術者から技術的な助言や支援を得られるように、技術者と各 SDCs の関係構築を行なった。</p> <p><b>(ロ) 衛生環境の改善</b></p> <p><b>B. 学校における手洗い場の設置</b></p> <p>手洗い場のモデルを当初予定していたものから、Tip-Tap モデルに変更し、維持管理が技術的に、また費用的に容易になった。また、Tip-Tap の構造について、各学校の SDCs に説明を行ない、維持管理の方法について理解を深めた。ゴクウェ・ノース地区の Ministry of Health and Child Care (MoHCC) (保健省) も維持管理方法について理解しており、今後は、SDCs と MoHCC がともに手洗い場の維持管理にあたっていく。</p> <p><b>C. 既修者コース (参加型保健及び衛生に関する教育の既修者コース) の実施</b></p> <p>この研修を通して、第 1 期で普及を図った保健及び衛生に関する知識が、各家庭及び各学校の中で、さらに定着化した。今後、ゴクウェ・ノース地区の MoHCC と現地で活動を続ける提携団体の ADRA Zimbabwe が月に 1 回の割合で、継続したモニタリングを行なっていく。</p>
------------------	--